

1 コルビジュエ

- 1) 画家 ドミノ
- 2) 1922、300万人の現代都市 1924『ユルバニズム』ロバの道⇒人間の道
- 3) 住居単位 人間尺度(モジュール)
- 4) 1935 『輝く都市』

2 CIAM(国際建築家協会)の結成

- 1) 1927 国際連盟会館コンペ 旧来の陋習
- 2) 第一回 ラ・サラ宣言 1928 夏 CIAM(建築国際会議)23国 CIRPAC(運営委員会)
(能率)とは商業利潤ではなく、合理性と標準化の産物。進んだ工業技術の活用
(都市計画)に必要な機能、①住む、②働く、③楽しむ、
対象物①土地利用、②交通の組織化、③法則、土地細分化の制限、住宅重視、
奢侈建築のために住宅問題を等閑視するアカデミーは社会の発展を阻害する。
教育に容喙、建築家の芽を摘み取り、政府の注文を独占、新生革新の妨害

- 3) 1929 第2回 フランクフルト
- 4) 1930 第3回 ブリュッセル

3 アテネ憲章への道

- 1) 1933 第4回CIAM大会 マルセーユ⇒アテネ⇒マルセーユ 1500人の聴衆
- 2) 貪婪な金銭の締木の中の〈人間の家〉の見直し。暖かく、整った人生の憩いの場。
- 3) 猛威を振るう大都市による人間の危機。人間の不幸の源である都市。
- 4) 多様な都市の分析。1932CIRPAC 18国、33都市の分析
- 5) 1937 第5回CIAM パリ「工業と技術の万博」3,000人「住居単位」の実物
(住居と余暇)〈都市と農村〉都市計画(太陽、空間、緑)

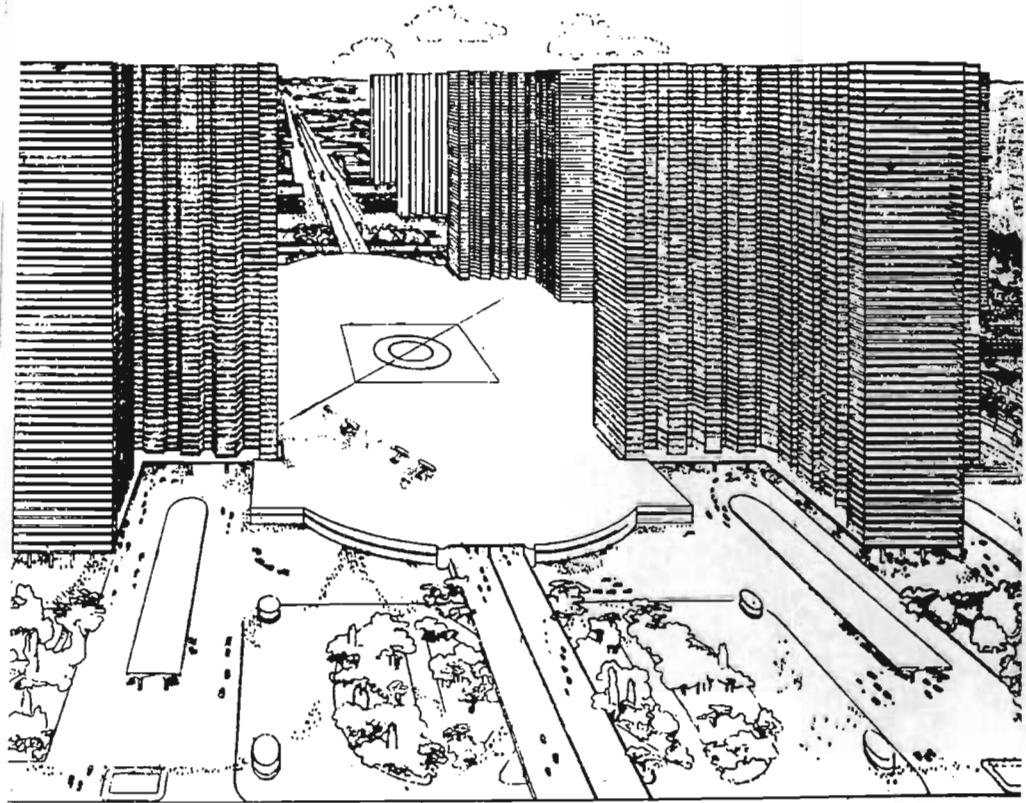
4 アテネ憲章の内容 95ヶ条

- 1) ① 都市とその地域 8、② 都市の現状——危機と対策 住居 22 余暇 11
勤労 10 交通 14、③ 都市の歴史遺産 6 ④ 結論 25
- 3) 変転する都市：交通手段の発達⇒無制限な都市への集中⇒都市の混乱
- 4) 私利の暴力⇒均衡の破綻：経済力の推進、行政の統制力の弱さ
- 5) 住む、働く、楽しむ、往来する ⇒ 住戸(細胞)の群れ、住居単位
- 6) 緑地の確保 空間 人間尺度
- 7) 土地の有効な組織化 個人の利益は手段の利益に従属

4 アテネ憲章の意義と課題

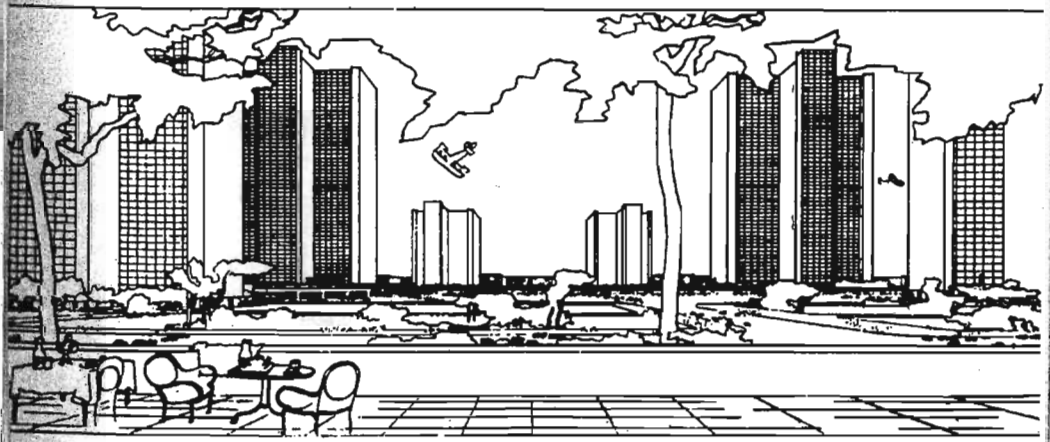
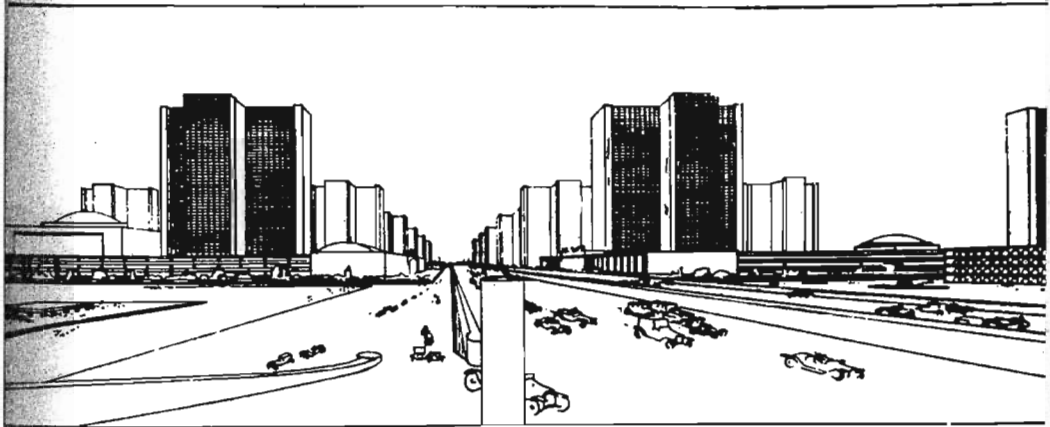
- 1) 現代的機能都市への変換——近代技術の活用 * 機能都市の限界と矛盾
- 2) 太陽、緑、広がり——人間居住 * 公的管理の制約(ジェン・ジェイコブス)
- 3) 余暇の位置付け

摩天楼に囲まれた中央駅を見
下行場の下に自動車道路が通
天楼の一階はビロティとなっ
ている。右の方に、木々のな
茶店や商店が望まれる。

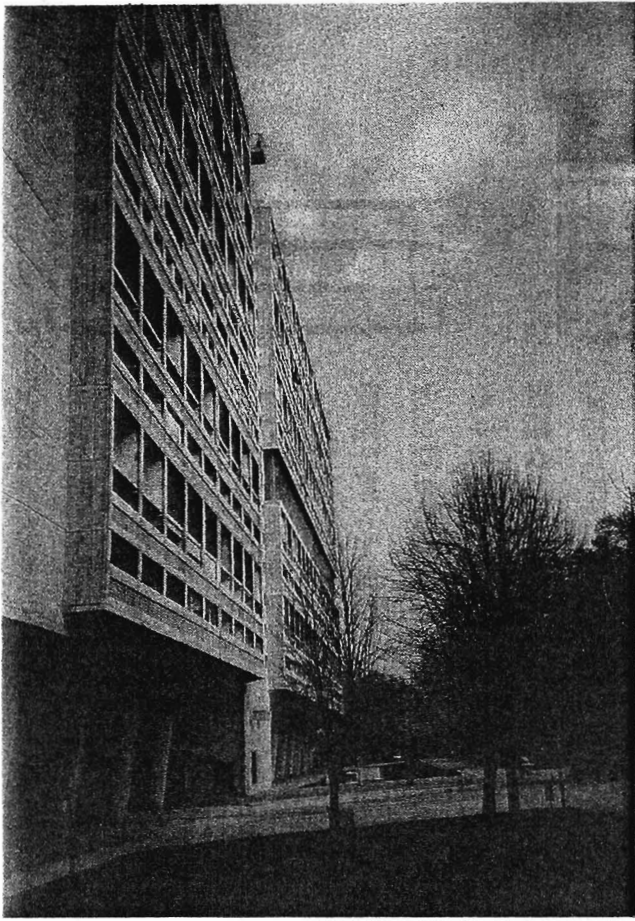


十・現代都市。「大縦断路」から見
中心部。摩天楼群が光と空気のな
かに浴している。手前の右と左に、
公共施設の広場。背景に博物館と大
す。

十一・現代都市。駅の広場の喫茶店の
テラスから見た中心部。左の摩天楼
の間に駅と屋上の飛行機発着所があ
る。そこから自動車道路が右に伸び
ている。この広々とした場所が、人
の密度の最も高い、交通のもっとも
忙しいところなのだ。劇場や公会堂
は緑の木々のなかにある。

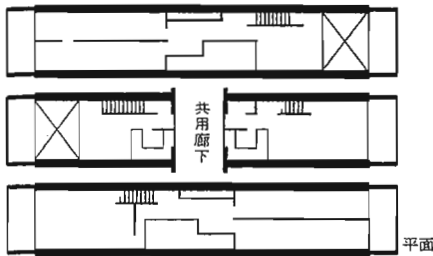


9-11 マルセイユのユニテ・ダビ
タシオン
地上部はピロティで持ち上げられて
いる。通常の階数にすると一八階程
度。
9-12 ユニテの立面
二層、一層のリズムでメゾネットが
積まれる。二層分の立面の異なる部
分にマーケットなどがある。

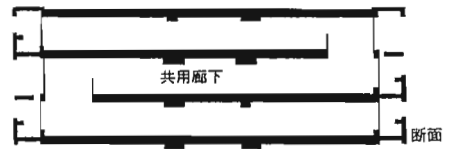


3 メゾネットの模式図

出廊下を抱いてふたつの住戸が組
まわされている。平面はきわめて
狭いが、両面からの採光や吹抜を
用いた通風などが確保されてい



平面



断面